

富山高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム・内部評価(1)

評価日時：2023年4月26日

会議名称：数理・データサイエンス・AI専門部会

開催場所：富山高等専門学校

目的：令和4年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル、応用基礎レベル）」の認定申請の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
認定要件を満たす授業内容	B	リテラシーレベル、応用基礎レベルの授業科目とも、Webシラバスの記載内容から、認定要件を満たす内容である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解	B	リテラシーレベルでは、データサイエンスⅡで産学連携教育Ti-TEAMを実施している。全学科から構成されたグループで、直接企業担当者にインタビューし、企業でのデータの利活用状況や産業界のDX動向を知ることができる内容となっている。 応用基礎レベルでは、AI/MOT、実験実習科目にて、企業実務者による講義、専門分野に関するPBLにより学生の興味を惹く内容を実施している。
学生アンケートを通じた学生の理解度	B	各科目で調査している学生アンケート及び内容の理解度の結果を分析、改善点等を挙げた。学生アンケートでは、以下の分析結果となった。 コアとなるデータサイエンスⅠ、ⅡおよびAI/MOTで、アンケート各項目で平均4.0以上となり、授業理解や満足度は高い結果となった。 データサイエンスⅠ、Ⅱは、わかりやすい授業との意見が多く、高い評価を受けている。 AI/MOTは、AI関連の説明を望む意見があった。授業実施企業担当者からの評価は高い。

学生アンケートの集計結果

アンケート項目	データサイエンスⅠ	データサイエンスⅡ	AI/MOT
授業はシラバスに基づき明確な目標・目的が設定され、内容が分かり易く展開されていましたか。	4.44	4.60	4.23
先生の白板、教材及び教育機器の使い方は適切でしたか。	4.49	4.65	4.34
先生は授業中、理解の度合いを確かめたり等をして、授業への参加を促しましたか。	4.23	4.65	4.25
全体としてあなたはこの授業を理解し、目標に到達しましたか。	4.14	4.44	4.17

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

富山高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム・内部評価(2)

評価日時：2023年4月26日

会議名称：数理・データサイエンス・AI専門部会

開催場所：富山高等専門学校

目的：令和4年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル、応用基礎レベル）」の認定申請の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
教育内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	教務委員会、FD委員会を通じて、授業アンケート結果をフィードバックし、各授業において授業改善に活用できる体制をとっている。
教育プログラム履修者の状況	C	リテラシーレベルについて、履修率はほぼ100%である。 応用基礎レベルについて、教育プログラム該当科目の一部履修も含めた履修率はほぼ100%である。ただし、修了者は履修者の約70%程度となっている。教育プログラム該当科目が選択科目であることが理由と考えられる。
産業界から教育プログラムの内容・手法等への意見	B	運営諮問会議（令和4年11月15日）で報告し、委員から「文部科学省としては、リテラシーレベルは取って当たり前、応用基礎も半分は取得して当然だと思っている」との意見があった。今年度、電子情報工学科、電気制御システム工学科開講のAI/MOT、また、その他、教育プログラム内容に関する授業を他学科異学年でも受講できるよう学業規則の改訂を行い、全学科で教育プログラムが履修可能であり、認定制度（応用基礎レベル）の学校単位申請を予定している。
その他		認定制度（応用基礎レベル）について、履修率及び修了率向上のため、一部科目の授業内容を見直し、変更届を提出した。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

自己点検評価委員会委員長へのレビュー

実施日 令和5年6月6日

参加者 数理・データサイエンス・AI専門部会員

委員長コメント：

以下の3点に留意して教育プログラムの改善を進めてほしい

- ・すでに応用基礎レベルの認定を受けている2学科分についてプログラム修了者数が当該学科の学生の100%に近づくように科目配当などを含めて改善すること
- ・新カリキュラム進行中の3年生が令和6年度の必修科目として開講するAI/MOT I, IIの準備を着実に進めること
- ・AIトップ人材育成プログラムの実施に向けて準備を進めること